



# 23. 情報サービス

## 業界動向

### 国内市場動向～堅調な市場拡大が続く

国内情報サービス産業の需要動向をみれば、物価上昇や円安等を背景に景気及び企業業績の先行き不透明感が残る一方、大企業、中堅企業を中心に、DX(注)の実現に向けた旺盛なIT投資が続いています。

供給面では、システムエンジニア等のIT関連の人材不足が続いており、こうした需給ギャップの拡大に伴い、システムソフトウェアの開発単価は上昇傾向にあります。

このような需要拡大と単価上昇を受けて、足元の国内情報サービス市場は、過去最高水準を更新しています。

注：Digital Transformation：データやデジタル技術の活用により、製品・サービス、ビジネスモデル、組織体制・意識決定プロセス等を変革し、競争優位を確立すること

## 今後の見通し

### IT人材不足～市場拡大と収益環境の重石

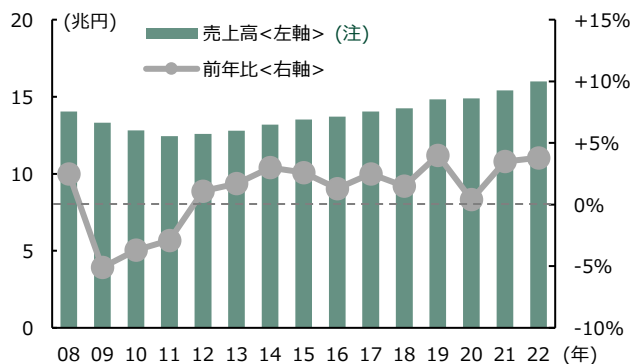
国内企業によるIT投資は、DX化に加え、老朽化が懸念される基幹システムの刷新、コスト削減や利便性向上に向けたシステムのクラウド化等のニーズが牽引する形で、今後も拡大する見通しです。

ただし、需要の拡大に開発リソースであるIT人材の確保・供給が追い付かず、市場拡大の重石になる可能性があります。加えて、情報サービス企業では、人材獲得競争の激化や物価上昇に伴う賃上げ圧力の高まり等から、人件費が増加し、収益環境が厳しくなる懸念もあります。

これらを受け、国内大手情報サービス企業は、同業買収の他、DX化やクラウド化対応のスキルを有する専門人材の育成等への投資を加速させることで、人材確保を進めています。

図表1 国内情報サービス売上高推移

～先行き不透明な景気状況でもIT投資は堅調



注：16年以降、毎年売上高の集計方法に変更があることから、22年実績を基準として、経済産業省公表の市場成長率を基に売上高を算出  
出所：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」を基に弊社作成

図表2 ソフトウェア投資額前年度比

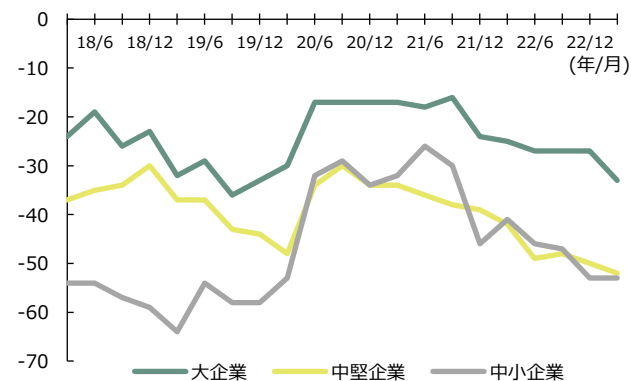
～企業による旺盛な需要が続く

企業規模 (業種)	20年度	21年度	22年度	23年度 (計画)
大企業	-7.8%	+7.3%	+15.1%	+6.0%
中堅企業	+6.2%	-1.4%	+17.2%	+12.0%
中小企業	-13.3%	+27.2%	+4.5%	+6.2%
全規模	-6.2%	+7.6%	+14.4%	+6.9%
製造業	-5.9%	+9.7%	+20.2%	+7.4%
非製造業	-6.4%	+6.4%	+11.4%	+6.5%

出所：総務省「情報通信白書」より弊社作成

図表3 情報サービス業 雇用人員DI

～IT人材不足の深刻化が懸念される



出所：日本銀行「日銀短観」より弊社作成